

平成 28 年度

東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

報告書



平成 28 年 4 月

FD実施委員会

## 平成 28 年度 東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

実施日：平成 28 年 4 月 8 日(金)、9 日(土) 会場：教育 5 号館 1 階

ディレクター：学長 笹津備規、副学長 太田伸  
 主催：全学FD実施委員会  
 事務局：学務部学務課  
 受講者：11名（薬学部8名・生命科学部3名）  
 タスクフォース：大野尚仁、杉浦宗敏、稲葉二郎、三浦典子、吉田君成  
 FD委員代表：薬学部 高木教夫、生命科学部 高橋勇二  
 オブザーバー：FD実施委員会委員長 山岸明彦、生命科学部長 都筑幹夫

### プログラム

#### 4月8日（金曜日）

11:45	受付開始	DR 棟 3 階会議室
12:00	開会式・アンケート記入、学長挨拶、会食、自己紹介	DR 棟 3 階会議室
12:50	オリエンテーション（教育とは）	5105 講義室
13:30	実習三期発表会参加	1101 講義室
14:30	移動&コーヒープレイク	
14:45	学生FD活動発表（学生目線で見えた「より良い授業」について）	5105 講義室
15:00	KJ法の説明（1）	5105 講義室
15:10	SGD1 KJ法 テーマ：「大学（学部）教育の問題点」	5103・5104 講義室
16:10	発表、合同討議	5105 講義室
16:40	目標の説明（2）	5105 講義室
17:10	SGD2 目標設定：ニーズ、GIOならびにSBOs テーマ1：入学者の学力差を解消するためのプログラム（1年次） テーマ2：問題解決力醸成のためのプログラム（1年次）	5103・5104 講義室
18:20	発表、一日目の評価アンケート、写真撮影	5105 講義室
18:50	会食	DR 棟 3 階会議室

#### 4月9日（土曜日）

9:30	方略の説明（3）	5105 講義室
10:00	SGD3 方略立案	5103・5104 講義室
11:30	発表、合同討議	5105 講義室
12:00	昼食	アトリウム
13:00	評価の説明（4）	5105 講義室
13:30	SGD4 評価立案、評価表とルーブリック作成	5103・5104 講義室
15:30	発表、合同討議	5105 講義室
16:00	コーヒープレイク	
16:15	対応策の検討の説明（5）	5105 講義室
16:30	SGD5 対応策の検討	5103・5104 講義室
17:30	発表、総合討論（副学長、学部長参加）	5105 講義室
18:00	アンケート記入・総評	5105 講義室

## 【参加者名簿】

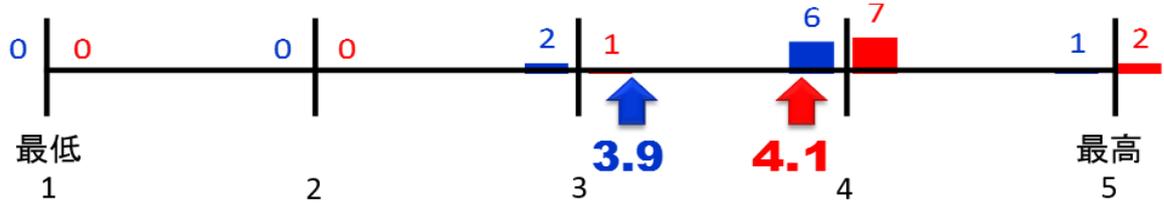
Aグループ		Bグループ	
学部	氏名	学部	氏名
薬学部	きたがき くにひこ 北垣 邦彦	生命科学部	のぐち こう 野口 航
薬学部	ますだ たかこ 増田 多加子	薬学部	えんどう ともひろ 遠藤 朋宏
薬学部	ふじた きょうこ 藤田 恭子	薬学部	しのだ よう 篠田 陽
薬学部	きよみ あんな 清海 杏奈	薬学部	ふじもと ゆうき 藤本 裕貴
生命科学部	まえもと ゆうき 前本 佑樹	薬学部	ぱく ひょんそん 朴 炫宣
生命科学部	かわぐち ゆうこ 河口 優子		

## 【添付資料】

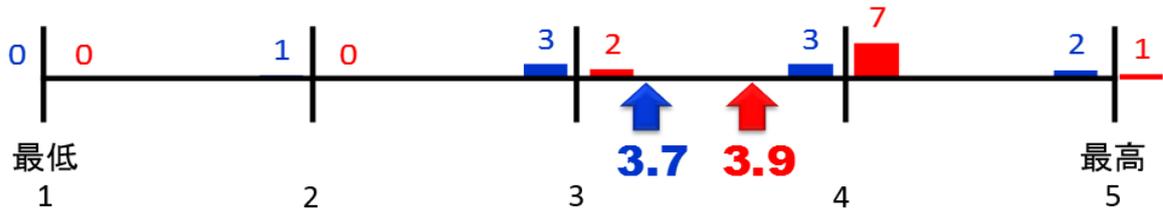
A、B グループ作成プロダクト(学内資料)

第1日目・第2日目の評価（青…1日目9名、赤…2日目10名）

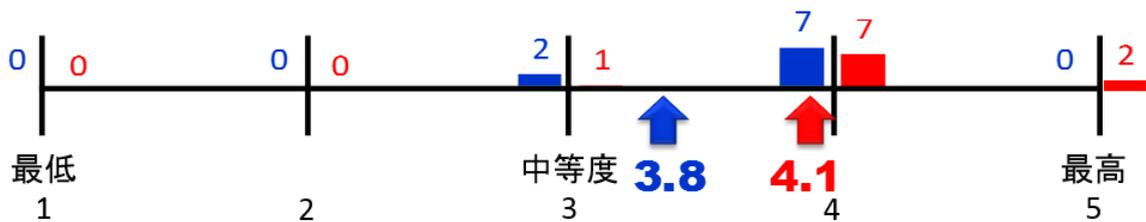
今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



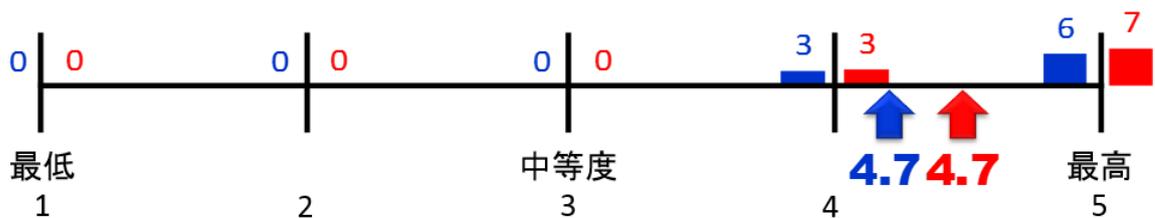
今日、あなたは討議にどの程度参加しましたか。



今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



今日の世話人の仕事はよかったですか。



## よく理解できたこと

### 【1日目】

- ・「教育」という考え方。
- ・GIOとSBOというのは理解できました。
- ・教育目標と学生の質の擦り合わせが困難であることが理解できた。

### 【2日目】

- ・プラス因子を増やすことより、マイナス因子を消していくことが重要ということ。
- ・問題点を解決する際の方略立案法を具体的に考える方法。
- ・二次元展開法の考え方やその合理性
- ・測定と評価の組み合わせの難しさを改めて認識しました。
- ・シラバスの設定の仕方に繋がる考え方。
- ・解決するためにマイナス因子を減らすほうが効果的であるということ。
- ・方略、評価にも手法がいくつもあること。
- ・二次元展開法で優先順位をつけること。
- ・問題解決に対して戦略的に対応する方法論。

## あまり理解できなかったこと

### 【1日目】

- ・個々の詳細は、まだ理解不足です。
- ・範囲の設定について。
- ・薬学部の授業の実態が理解しにくかった。
- ・教育のおもしろさ。

### 【2日目】

- ・評価方法の選択は難しいと気づきました。
- ・評価の方類、区別分け
- ・対応策の抽出と、現実論での差を埋める方が難しいです。
- ・方略、評価にも手法の細かな内容。
- ・評価法 taxonomy

## その他の意見・感想

### 【1日目】

- ・詰め込まれてしんどかったです。
- ・なかなか考えない事を考えたので、面白かったです。
- ・学生FDとの討論時間をもっと設ける方がいい。
- ・とても良いワークショップで、色々な先生方ともお知り合いになれてよかったです。
- ・議論が一般的な事項になるので、面白味を出すのが難しかったです。

### 【2日目】

- ・教育全般において体系的な知識がない中、学生に接してきたので、今回のWSを通じて具体的な教育法について考えるきっかけとなった。
- ・いろいろ詰め込まれた感覚もあり、2日間で学んだことが、知識として定着し実践していけるか不安だが、他者の意見が色々聞いたことは有意義でした。
- ・テーマが難しく、段階が進むとかなり難しかった。
- ・テキスト内の順番が進行と一致していない部分があり見るのが大変だった。
- ・講義の改善に活かしたい。
- ・とても楽しくためになりました。

チーム

# 教育評価アンケート

TRUE (正) FALSE (誤)

プレ ポスト

<input checked="" type="radio"/> T	<input type="radio"/> F	1. 学習目標を明確にすることは、教育評価の妥当性を高める。	9	10
<input type="radio"/> T	<input checked="" type="radio"/> F	2. 総括的評価とは、学習者の知識・技能・態度を総合した評価のことである。	1	3
<input type="radio"/> T	<input checked="" type="radio"/> F	3. 形成的評価とは、最新の知識を学習者がどの程度知っているかを評価することである。	8	9
<input type="radio"/> T	<input checked="" type="radio"/> F	4. チェックリストは知識を評価する際に適している。	3	4
<input type="radio"/> T	<input checked="" type="radio"/> F	5. 観察記録は、実習中に観察したことを学習者が記録したものである。	6	10
<input type="radio"/> T	<input checked="" type="radio"/> F	6. 同僚評価は、特に知識(認知領域)の評価に効果的である。	8	8
<input checked="" type="radio"/> T	<input type="radio"/> F	7. 技能(精神運動領域)の評価に評定尺度は有用である。	9	9
<input checked="" type="radio"/> T	<input type="radio"/> F	8. 学習者の能力向上の程度は、カリキュラムや教授法の評価の参考となる。	10	10
<input checked="" type="radio"/> T	<input type="radio"/> F	9. 測定すべき行動領域と評価法とが合致した評価は妥当性が高い。	10	9
<input checked="" type="radio"/> T	<input type="radio"/> F	10. 評価者を複数にすることで、技能の評価における信頼性を向上させることができる。	10	10

# 総合アンケート

プレ ポスト

賛成 どちらか  
いいない 反対

1	6	1. カリキュラムとは、学科別時間配分表のことである。			○
2	5	2. 教育目標は、教授者が何をなすべきかを明確に規定したものである。			○
5	6	3. 学則で教育理念が示されていれば、教育の不十分な部分を容易に見見できる。			○
9	9	4. 教育目標を設定しておかなくても、正しい評価は可能である。			○
7	6	5. 知識を獲得するには、講義を聴くのが最良の方法である。			○
3	5	6. 問題解決の教育には、指導者が問題解決の仕方を示さなくては学習者が問題解決能力を修得することはできない。			○
0	1	7. 実習に先立って、十分に知識を教えることは必須である。			○
7	7	8. 教授者が厳しければ厳しいほど、学習者はやる気を出す。			○
1	2	9. 試験をしなくても、教育評価は可能である。	○		
0	6	10. 教育の改善を促進させるには、まず改善にとってのプラス因子を増やす方策が肝要である。			○

おわりに

このワークショップは、本学に着任されて間もない先生方に、本学の教員としての志を共有していただきたいとの思いから始められたものであり、教育の基本であるカリキュラム立案についてグループワーク等を通じて学んでいただいています。年度初めに開催することから、年度途中に入職された先生方にもご参加いただいております。昨年度は土曜日に2週続きで開催しましたが、今年度は日程調整ができず、金曜日午後と土曜日の開催となりました。既に、授業開始日を過ぎており、一部の先生方には、授業と掛け持ちしながらワークショップにご参加いただくことになりました。ご多忙にもかかわらず11名の先生方に参加していただき、充実した時間を共有することができました。特に、薬学6年制教育の1期生が大学院博士課程を修了し入職してきたことから、教員組織の新たな幕開きとなりました。学長、副学長、両学部長、FD委員なども加わり、学内の様々な教室・研究室の教員が集い、学内全体を知る上でも有意義な時間とすることができました。

グループ討議のテーマは、昨年と同じ「入学者の学力差を解消するためのプログラム（1年次）」と「問題解決力醸成のためのプログラム（1年次）」の2つを設定しました。いずれも、本学で実際に懸案となっている内容であり、討議は活発に行われ、素晴らしいカリキュラムが立案されました。前者については、「プレースメントテスト」「到達度試験」など、既に実践している方法を取り入れたプログラムを立案することができました。後者については、1年次のプログラムであることを意識し、アカデミックスキルズ修得を中心としたものが立案されました。

大学教育の問題点と対応策の検討では、「学力差」「モチベーション」「コミュニケーション」「ニーズ（社会、教員、学生）」などがキーワードとなり、「意識改革」「コミュニケーション」が最重要課題としてあげられ、対応策が検討されました。

薬学部では実務実習発表会の開催が重なったので、発表会に参加し、学生のプレゼンテーションについてループリック表を用いて、パフォーマンス評価にチャレンジしました。また、各グループの作成したプログラムにおいても、ループリック表の作成を試みました。文部科学省からは参加型プログラムの充実が求められており、ループリック表を用いたパフォーマンス評価の重要性は益々高まるので、意義ある経験ができたものと思われまます。また、生命科学部では学生FD活動が活発に行われているので、3名の学生に加わっていただき、活動を紹介してもらいました。学生の発表やFD活動など、参加型プログラムの実践例に触れていただくことができ、大変良い機会となりました。

本ワークショップでは、個別の報告書の提出を求めておりません。ワークショップは非常にタイトなスケジュールで進行するので、実施中にはじっくり考えをまとめることができず、報告書を作成する意義は、終了後に個別に振り返りの時間を設けることにあります。その点を省略したのは、大変残念なことですが、学生指導等で大変多忙な状況であるので、参加者の皆様には当日の成果とアンケート結果をまとめた本報告書の内容をじっくりお読みいただきたいと思ひます。

本学薬学部は長期実務実習のためのワークショップ、指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ、全学合同のFDワークショップ、学生のミニワークショップなど様々なワークショップを実施しております。これらを独自に企画、立案、実施するためのスタッフ、ファシリテーターも実践を通じて育てております。今回のWSもこれらの先生方の協力があつて実施できました。この組織を活用し、今後も様々な形のワークショップが広がっていくことを期待しております。新入教員の先生方にも、タスクフォースに加わっていただくことを期待いたしております。

文責 タスクフォース 大野尚仁

